

---

 学 会 記 事
 

---

## 第24回リバーカンファレンス総会

日 時 平成12年7月1日(土)  
9時30分より  
会 場 日本歯科大学新潟歯学部  
講堂

## I. 一 般 演 題

## 1) 消化器疾患を契機に HIV の感染が判明した3例

高橋 光・関根 忠一  
天海 陽子・小柳 佳成  
原澤 茂 (済生会川口総合病院)

【初めに】消化器疾患を契機に HIV の感染が判明した3例を経験した。【症例1】49歳, 男性. 不特定多数の性交渉歴有り. 既往歴に B 型急性肝炎, 梅毒がある. 発熱, 右上腹部痛にて入院. HIV-1 陽性, CD4 cell ; 260/ $\mu$ l. 肝 S5 に肝膿瘍が疑われる径約 6 cm の腫瘤を認めた. 赤痢アメーバ抗体の上昇を認め, 赤痢アメーバ性肝膿瘍と診断した。【症例2】31歳, 男性. 不特定多数の性交渉歴有り. 食欲不振, 黄疸, 肝機能障害にて入院. HIV-1 陽性, CD4 cell ; 408/ $\mu$ l. A 型急性肝炎と診断し保存的治療で軽快した。【症例3】46歳, 男性. 同性愛者. 既往歴に梅毒がある. 腹痛, 血性下痢にて入院. HIV-1 陽性, CD4 cell ; 59/ $\mu$ l. 大腸に潰瘍, びらんを認めた. 赤痢アメーバ抗体の上昇を認め, 赤痢アメーバ性腸炎と診断した。【結語】赤痢アメーバ性腸炎, 肝膿瘍は HIV 感染者で散見される病態であり, HIV 感染の可能性も考慮に対応することが必要と思われる。

## 2) 慢性肝疾患を合併した血友病患者の予後

畑 耕治郎・黒田 兼  
五十嵐健太郎・何 汝朝 (新潟市民病院)  
月岡 恵 (消化器科)  
真田 雅好 (同血液科)

血友病患者66例について肝機能, 肝炎ウイルスマーカー, 臨床経過および予後を検討した. 肝機能異常は34例(65.4%)にみられた. HBs 抗体は22例/30例(73.3%), HCV 抗体は27例/27例(100%)が陽性と高率であった. HCV-RNA は13例/16例(81.3%)が陽性で, ジェノタイプは12例について測定し1b6例, 2a4例, 2b2例であった. HCV 抗体陽性肝機能異常者は19例/27例に認められ, 肝硬変進展例は6例(非代償性4例)であった. 3例に食道・胃静脈瘤破裂を認め, うち2例は HIV 陽性であったが臨床経過は肝病変が優位で, 免疫不全症よりも肝不全が直接死因となった. また1例に肝細胞癌が発生し TAE が奏効したが, 肝硬変の進行に伴う血小板減少による急性硬膜下血腫が死因となった. HIV・HCV 重感染例では比較的若年で肝硬変へと進展し, 肝病変が臨床経過および生命予後に影響を与えた。

## 3) 急激な経過で発症し腹部 CT で急性脂肪肝様の所見を呈した糖尿病性ケトアシドーシスの一例

細葉美穂子・田中 敏春  
木下 秀則・広瀬 保夫 (新潟市民病院)  
畑 耕治郎・山崎 芳彦 (救命救急センター)  
百都 健 (同内分泌代謝科)

症例は42歳女性. 平成12年3月初旬より感冒様症状が出現. 中旬より, 口渇を自覚し飲水が多量になっていた. その後, 嘔吐, 上腹部痛が出現したが, 近医で胃腸炎と診断されていた. 3月20日早朝より傾眠傾向となり, 21日深夜, 意識障害で近医に搬送されたが, 著しい高血糖のため当院に紹介搬送された. 来院時, 著明な代謝性アシドーシス, 血糖 785 mg/dl と高血糖, 肝機能障害, 横紋筋融解症, DIC, 急性腎不全を認めた. また, 腹部造影 CT では肝臓全体にびまん性に低吸収域を呈しており, 急性脂肪肝の所見であった. 第3病日の腹部 CT では脂肪肝は著明に改善していたが, 肝生検では, 小葉内にびまん性の中～小脂肪滴の高度沈着を認めた. 糖尿病性ケトアシドーシスの治療により全身状態は良好となり, 種々の病態も速やかに改善した. 急性発症の1型糖